

Radiographic factors associated with the presence of painful callosities after forefoot surgery in patients with rheumatoid arthritis

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 飛松, 晴貴 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.20780/00033279 |

学位論文の要旨

Radiographic factors associated with the presence of painful callosities after forefoot surgery in patients with rheumatoid arthritis

(関節リウマチ患者に対する前足部関節温存手術における術後有痛性胼胝発生に関連する画像的危険因子)

東京女子医科大学大学院
外科系専攻整形外科学分野
(指導：岡崎 賢教授)

(研究指導：猪狩 勝則特任教授)

飛松 晴貴

Modern Rheumatology に掲載

【要 旨】 当院では関節リウマチ (RA) 前足部変形に対し、母趾には中足骨近位楔状回旋骨切り術、第 2-5 趾には中足骨遠位短縮斜め骨切り術変法を組み合わせた関節温存手術を行ってきたが、一部の患者で術後に有痛性胼胝が生じることが問題となっていた。本研究の目的は術後有痛性胼胝発生の画像的危険因子を調査することである。2012 年から 2015 年に関節温存手術を施行した 133 例 166 足を対象とした。単純 X 線立位足部正面像にて第 1-2 中足骨頭高位差 (RML)、外反母趾角 (HVA)、第 1-2 中足骨間角 (M1M2A)、第 1-5 中足骨間角 (M1M5A) を測定し、第 2-5 中足骨頭の位置が第 2 中足骨頭を頂点とする Arc 形状を呈さない外側趾 Arc 不良と、MTP 関節脱臼再発の有無も観察した。また単純 X 線足部斜位像にて第 5 中足骨遠位短縮斜め骨切り後の第 5 中足骨背側転位量 (5DD) を計測した。最終観察時の有痛性胼胝の有無を目的変数とし、RML、5DD、HVA、M1M2A、M1M5A、外側趾 Arc 不良、MTP 関節脱臼再発を説明変数とし、ロジスティック回帰分析を用い有痛性胼胝発生との関連を調査した結果、RML、5DD、外側趾 Arc 不良が胼胝発生と有意に関連していた。有痛性胼胝発生を防ぐには RML を基準値内に抑えつつ、5DD を抑え、外側趾の Arc を保つ必要がある。